

西東京市都市計画マスタープランの改定にあたって

都市型合併後の新たな市として最初の「都市計画マスタープラン」を策定してから10年が経過しようとする現在、道路や公園をはじめとする都市基盤の整備やにぎわい、安全性、快適性を向上するための駅周辺の再開発などによる整備は、着実に進んでおります。また、大規模工場跡地での土地利用転換などを目指すべき姿へと規制・誘導した地区計画制度の活用も実績を重ねており、この間、当初掲げたまちの将来像の実現を目指し、都市づくりのさまざまな取組みを進めてまいりました。

一方で、道路幅員が狭いため安心して歩くことができない、緊急車両の通行が困難な生活道路の改善がなかなか進まないなど、生活環境面での課題が依然として残されています。また、近い将来起こると予想される首都直下地震への対応や短時間の集中豪雨により浸水被害が発生する都市型災害への対応など、防災面での課題も新たに生じてきました。

今回の「都市計画マスタープラン」の改定では、まちづくりの基本理念やまちの将来像などの大きな方針は基本的に継承しつつも、今後10年間に重点的に推し進めるべき都市づくりの戦略的テーマを新たに設定し、まちづくりの目標をより具体化することで、市民の皆様へ近未来の西東京市の姿を思い描いていただきやすくなるような試みをいたしました。

改定にあたりましては、地域で活動されているまちづくり団体へのヒアリングや地域別説明パネル展の開催などを行い、西東京市の将来の姿について、市民の皆様から多くのご意見をいただきました。いただいたご意見のすべてを巻末に記録し、具体のまちづくりを進めるうえでの糧にしたいと考えております。

今後は、この都市計画マスタープランで示す将来都市像の実現に向けて、市民の皆様との協働のまちづくりを積極的に推進し、安全・安心が確保され、住宅都市としての価値が高く、駅アクセス利便性の高いまちを目指して、全力でまい進する所存でございます。

最後に、この都市計画マスタープランを策定するにあたり、熱心なご議論をいただいた「西東京市都市計画マスタープラン中間見直し策定委員会」の委員の皆様をはじめ、多くの貴重なご意見をお寄せいただいた市民の皆様へ心より御礼申し上げます。

平成26年3月

西東京市長

丸山 浩一

